

令和 3 年度

横浜市立横浜総合高等学校

自己評価書

横浜市立横浜総合高等学校

<学校情報>

1. 課程・学科 定時制・三部制・総合学科

2. 学校長 小市 聡（平成30年4月1日着任）

3. 学校教育目標

1. 一人ひとりの意欲や生活スタイルに応じた学習や諸活動を通して、生きる力を育成する。
2. さまざまな個性との出会いやふれあいを通して社会性を培う。
3. 自分の将来を見つめながら、生涯を通じて自己実現を図ることのできる資質を育成する。
4. 体験活動や探究活動を通して、創造性のもととなる資質の育成を図る。

4. 教職員数（令和3年12月1日現在）

学校長	1	臨時的任用職員	14	事務長	1
校長代理	1	再任用職員	9	事務職員	6
副校長	2	実習助手	1	技能職員	4
主幹教諭	8	非常勤職員	28	管理員	1
教諭	59	図書館職員	2	部活動指導員	4
養護教諭	2	スクールカウンセラー	1		

5. 生徒在籍数（令和3年12月1日現在）

	21		20		19		18		17・16		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
I部	65	73	63	74	55	76	10	12	3	4	43
II部	43	51	35	52	47	43	9	1	8	0	289
III部	30	24	47	41	34	19	17	9	7	5	233
計	138	148	145	167	136	138	36	22	18	9	957
全校生徒数	男	女	計	(内 休学 男子 4名 女子 3名 計 7名)							
	473	484	957	(休学内訳 I部 2名、II部 2名、III部 3名)							

回収率

		依頼数	回答数	回収率
教職員		95	95	100%
生徒	I部	433	292	67%
	II部	287	163	57%
	III部	230	126	55%
保護者		950	442	47%
地域		50	25	50%

7. 自己評価実施日

令和3年9月下旬～11月下旬

8. 集計・分析期間

令和3年12月下旬～令和4年3月下旬

9. 自己評価書の公開方法・時期

- 令和3年12月の学校評議員会および学校評価三者懇談会（人数制限下）で、生徒・保護者・地域の方々・教職員に学校評価集計報告を公開した。
- 令和4年6月に、学校ホームページに公開する予定。

<自己評価>

1 第3期 横浜市教育振興基本計画の推進状況

「三部制総合学科高校として社会で自立し、貢献する力を育てます。」

「企業と連携してキャリア教育を進めます。」

□魅力ある高校教育の推進状況

(関連アンケート番号 : 教職員 1 保護者 1, 2 地域 1)

<p>取 組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎学力の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・平成 27 年度より「キャリア基礎（学びなおし講座）」を設置し、「基礎力診断テスト」を導入している。 ○キャリア教育の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・1 年次の「産業社会と人間」及び、2 年次以降の「総合的な探究の時間」の中で、職業についての知識や技術を体験的に学び、自立する力を育成している。 ・3 年次生以上の「総合的な探究の時間」において、地域の企業から与えられた課題の解決に取組み、ポスターセッションを行っている。 ・平成 26 年度に「横総未来博」を立ち上げてから 8 回目の実施となり、全校生徒の進路決定に必要な知識を体験とともに修得させるよい機会となっている。 ・選択授業の 1 つとして取組んでいるキャリアデザインでは、地域の企業でインターンシップを行い、高い評価を得ている。 ○「ようこそカフェ」 <ul style="list-style-type: none"> ・多様化する生徒の居場所づくり、食育に重点を置き行っている。令和 2 年度からは、予算的措置や外部機関の全面的協力を得て、より充実した活動となっている。 ○保護者や地域に信頼される学校づくり <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを充実させ、学校の様々な取組を視覚的に中学生、中学校関係者、保護者に伝えることにより、学校への理解度や信頼度の向上を図っている。 ・市内中学校への説明を丁寧に行い、学校の魅力を伝えている。 ・不登校対応研修会を中学校教員向けに実施し、理解を深めている。 →（コロナ対応のため中止）
<p>成 果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員アンケートでは「魅力ある高校づくりに向けて学校全体として取り組んでいるか」の問いに対して 87%の教職員が十分またはおおむね実現できていると答えている。 ・保護者アンケートでは「教育方針や学校目標についてきちんと説明しているか」「本校の教育課程は、生徒の進路実現や適性に合ったものとなっているか」の問いに対し、いずれも 85%以上の保護者が、そう思う、ややそう思うと答え、良い評価を得ている。
<p>課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある学校づくりに取組むとともに、中学校や受検生、その保護者に対し、学校の魅力を発信し周知に努めているが、受験生の増加につながっていないことが課題である。
<p>改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の将来の在り方を検討する将来構想委員会の機能をさらに充実させ、学校全体で魅力ある学校づくりに取り組んでいく。 ・中学校訪問や学校説明会、個別相談会をさらに充実させ、学校の魅力を積極的に発信する。 ・学校ホームページの一層の充実を図り、生徒や保護者のみならず中学校、受検生とその保護者等外部の方々により多くの情報を発信していく。

2. 教育活動の状況

□教育課程の状況

(関連アンケート番号：教職員 2.3、生徒 1、生徒による授業調査)

取組	<ul style="list-style-type: none">・教育課程委員会において、令和2年度に新教育課程科目の準備・検討を行い、新教育課程表が完成したことで、令和4年度入学生より実施される新教育課程に向けて、新学習指導要領の趣旨に基づいた指導計画の準備を各教科と共に行った。・学校外の学習等による単位認定については、校外講座、技能審査、高卒認定試験を単位認定し、主体的、創造的な学習態度の育成を図った。・「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」を活用して、「基本的な生活習慣の確立」、「社会的・職業的自立に向けて必要となる力の育成」を実践した。
成果	<ul style="list-style-type: none">・教育課程委員会において、新教育課程表の整備が完了し、総合学科の特色を活かした科目設定を目指して、講座の検討、時間割編成など計画的に進めることができた。・集計の結果、「編成・取組」共に評価が昨年より大幅に上がっている。新教育課程実施に向け、職員の意識の高まりが評価に現れたものと捉え、今後も期待に沿えるような運営を行いたい。・キャリアガイダンス部の年間計画に沿って、充実したキャリア教育が実践され、卒業に向けた主体的な授業選択ができる学習意欲が高い生徒が増えた。
課題	<ul style="list-style-type: none">・学習指導要領の趣旨及び横浜市の方針に基づき、中期学校経営方針に掲げた目標の実現を目指した「編成・取組」の評価を「あまりできていない」から「おおむねできている」にアップさせる。・コロナ禍の中の学習環境及び学習機会の保障をどう運用していくかが課題である。・定時制の定員割れが神奈川県全体で大きな問題となっている。特にⅢ部の定員割れが近年著しい中で、生徒の履修希望に応えることが困難に近い。少しでも希望に添える時間割の作成が望まれる。
改善策	<ul style="list-style-type: none">・新教育課程の実施に向けて、横浜総合高校の特色を生かした学習環境を整え、生徒の多様性に応じた学校を目指す。・生徒の関心・意欲を引き出すために、さらに充実した年間指導計画・評価計画を作成する。・時間割の作成については、生徒の履修希望に近づくことができるように工夫すると共に、未履修者の減少を目指して、魅力ある授業づくり、学習意欲の向上、進路を見据えた履修計画など、他分掌と連携しながら改善を図る。

□生徒指導・教育相談の状況

(関連アンケート番号：教職員 8,9、生徒 2,4,5、保護者 4,6)

取組	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の感染が続く中、生徒が抱える不安やストレスを和らげるため、普段以上の見守り・声掛けに取り組んだ。 ・不安やストレスを感じている生徒の心のケアに対処するため、教育相談を充実させ、生徒指導部、保健室、SC、さらにはSSWとの連携を密にし、相談しやすい環境づくりに努めた。 ・ますます多様化する複雑な問題を抱えた生徒に対して、常日頃からの声掛けにより、些細な変化を見逃さないように取り組んだ。 ・生徒間や地域とのトラブルの未然防止、生徒のマナー向上を第一に考え、全職員で定期的に校外巡回に取り組んだ。 ・各部代表による情報の集約と方針の確認、I部からIII部までの指導の統一（「ブレない指導」）など、生徒指導体制をさらに強化した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談体制の充実により、生徒の評価も上がり、教員やSC、SSWによる早期対応を行うことができた。 ・生徒指導部の各部代表を中心に情報を共有することができ、指導部として統一した方針で指導に当たることができ、職員の評価も上がった。 ・保護者、地域共に生徒指導関連の評価が上がった。今後も継続して取り組んでいきたい。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の更なる育成が必要である。 ・校外での生徒のマナー向上を引き続き向上させていく。 ・地域との様々な交流活動を今後も続けていく。 ・ますます多様化する複雑な問題を抱えた生徒に対する相談体制の更なる充実が必要である。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の生徒指導や教科指導を通して規範意識をより一層高めさせる。 ・異年齢との関わり・異空間の体験等、地域との交流活動を通して、多くの価値観に触れ、判断能力の育成に繋げていく。 ・生徒の実態に合わせた相談体制の見直しを進めていく。 ・登下校のマナーを向上させ、近隣の迷惑になるような行動を取らないよう、手立てを講じていく。

3 学校経営の状況

□教育目標の設定・実施状況

(関連アンケート番号：教職員 13, 14 、生徒 9 、保護者 1, 3)

取組	<ul style="list-style-type: none">・学校教育目標（「一人ひとりの意欲や生活スタイルに応じた学習や諸活動を通じて、生きる力を育成する」、「様々な個性との出会いやふれあいを通して社会性を培う」「自分の将来を見つめながら、生涯を通じて自己実現を図ることのできる資質を育成する」「体験活動や探究活動を通して、創造性のもととなる資質の育成を図る」）、経営方針については、年度当初の職員会議等で確認し、本校の教育活動で実現するよう取り組んでいる。・学校教育目標、経営方針について、入学者のオリエンテーション等での説明を徹底し、またキャリア教育の一層の充実を図ることで、保護者だけでなく生徒も入学して良かったと思えるような学校になるよう努めている。
成果	<ul style="list-style-type: none">・保護者の、教育方針や学校目標への理解は 86%であり、おおむねご理解を得ていると考えている。また、保護者から見た学校に対する満足度も 93%で高い評価を得ている。・学校教育目標の実現に向けた全教職員の取組（78%）、経営方針に基づく協力した取り組み（84%）は令和 2 年度より良い値となり、教職員が学校教育目標や学校経営方針を意識して取り組んでいると思われる。
課題	<ul style="list-style-type: none">・学校教育目標の実現に向けた全教職員の取組は、令和 2 年度に比べ良い値となっているが、まだ十分に実現できているとは言えず、更なる意識の向上が求められる。・本校を誇りに思う生徒がまだまだ少ないのが現状であるため、生徒にとって入学して良かったと思える学校づくりが求められる。
改善策	<ul style="list-style-type: none">・職員会議での確認だけでなく、常に学校教育目標を意識して学校教育に取り組むよう努める。

□保護者・地域等との連携協力の状況

(関連アンケート番号：教職員 23, 24、生徒 14、地域 4, 5, 6)

取組	<ul style="list-style-type: none">・新型コロナウイルス感染拡大の影響で、例年5月に行っている「学校生活説明会・年度部懇談会・PTA定期総会」を開催することができず、コクーを利用して書面評決方式でのPTA総会を行った。・PTA広報誌、各委員会からのお知らせなどは、例年は各家庭に直接郵送していたが、令和2年度から経費削減のため、生徒を通じたの配付とし、より確実に保護者の手元に届くよう、配付した旨のお知らせをコクーでも掲載した。・検討課題であったPTA関連の会議の開始時刻を、令和2年度より19時に変更し、引き続き検証を行った。・新型コロナウイルス感染拡大の影響で、市高P連や3市高P連の活動が中止や紙面開催となり、それに伴い、本校PTA活動も自粛する部分があり、年度部委員会の活動は行わなかった。・文化祭において例年は、地域に開かれたPTAを目指し、行事サポート委員会主催のバザー、飲食販売を行っているが、令和3年度は行事サポート主催のバザーとフォトショップを行い、飲食販売は行わなかった。ここ近年行っていたPTA活動の取り組み等のパネル展示やPTA広報誌の展示、PTA役員OBによる喫茶店にて過去の活動や校歌の紹介、PTA新旧役員と有志による「なんでもステージ」等は行わなかった。・生涯学習委員会主催で、ミュージカル観劇会を行った。令和元年度に年度部委員会の活動と時期が重なったことの反省を受け、令和2年度から年1回の開催とすることとした。・広報委員会が発行している広報紙「飛翔」も滞りなく発行できた。
成果	<ul style="list-style-type: none">・各委員会の人数の均等化が令和元年度からの課題であったが、その反省点を受け、均等に各委員会に割り振ることができた。・令和2年度からコクーを導入できたことで、様々な情報発信をスムーズに行うことができた。PTA総会もコクーによる書面評決方式で行うことができ、例年担任の先生方にお手数をおかけしている委任状集めも速やかに行うことができた。また、今まで郵送で行っていた議案書の送付もコクー上に添付資料として掲載することができ、経費削減に大いに役立った。・PTA役員や委員長をはじめ、各委員の皆様の努力により、PTA総会で承認された事業計画案をほぼ実施することができた。・生涯学習委員会主催行事では、魅力ある内容のものを発信できたために、多くの参加者を得ることができた。

<p>課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ コクー導入により、情報発信をスムーズに行うことができ、今までの課題であった「より多くの保護者への広報活動」について、ある程度達成できたが、コクー未登録の家庭には今後も登録を促していく努力がPTAとしても必要かと思われる。一方でHPの活用はPTAとしてはできていなかった。コクーとHPを上手く併用していくことが課題である。 ・ 年2回発行しているPTA広報誌の第1回目の紙面内容を「先生紹介」と「スポーツ祭」としていたため、発行時期が8月末になっていたが、先生紹介の紙面は少しでも早く保護者の手元に届けたいとの意見があった。また、第2回目の「卒業おめでとう号」について、在校生に向けては卒業式の様子に多くの紙面を割くよりも、行事の写真を多く掲載したいとの意見があった。今後の紙面内容と発行時期を検討する必要がある。 ・ 勤務時間の多様性のため、会議の開始時刻18時には間に合わないとの声も出ていたため、令和2年度からPTA関連の委員会開始時刻を19時に変更したが、令和3年度4月の第1回目の全体会は内容が多岐にわたったため時間がかかってしまい、終了時刻が21時を過ぎてしまった。令和4年度は議事の内容によって開始時刻を早めるなどの工夫が必要である。また、19時開始による各委員会運営への影響については今後も引き続き検証を行っていく必要がある。 ・ 令和3年度は、令和2年度に引き続き、新入生で委員になっていただける方が少なかったり、在校生の保護者も委員を継続してくださる方が少なかったりと、委員会の全体人数が少ない年になった。新型コロナウイルス感染症の影響で活動が思うようにできなかったことが、これらに少なからず影響を与えているのではないかと思われる。今後いかにして保護者にPTA活動に関心を持っていただき、学校に足を運んでいただくかが、とても大きな課題である。
<p>改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ コクーでの保護者への連絡を確実に行っていくとともに、HPにPTA活動に関する情報をよりタイムリーにアップする。 ・ 広報誌「飛翔」の発行時期と紙面内容についての意見を受け、令和4年度に向け、第1回目は「先生紹介」のみの内容とし、7月の面談前に発行できるよう検討していく。また、第2回目についても、在校生と卒業生の紙面に区別をつけるなどの工夫を検討していく。 ・ 会議の開始時刻については、議事の内容によっては今後も19時開始を基本とし、議事の内容によっては開始時刻を早めるなどの工夫をしていく。 ・ 多くの保護者にPTA活動に興味・関心を持っていただけるよう、開催日時の検討や、魅力ある行事の選定、広報活動等の工夫を行う。

□保護者・地域等との連携協力の状況

(関連アンケート番号： 地域 4～9)

取組	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度もコロナ禍の為、地域に出ていく形の地域貢献活動は行えなかったが、弘明寺商店街と協議の上、新しい形の地域貢献活動を行った。商店街中央のさくら橋に、商店街への応援メッセージカードや感染予防を呼びかけるミニポスターを作成し掲示した。事前学習として弘明寺の地域についての学習をし、その上で生徒一人一人がカードを作成した。 ・3年次生以上の「総合的な学習の時間」における「課題研究」において南区役所および南区消防と連携したテーマで取り組んでいる。放課後の時間、校内に地域の方々を招待しインタビューを行う等、主体的な学習場面を増やしている。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次と2年次で時期をずらしてメッセージカードを作成し、商店街に掲示したところ、道行く利用客が熱心にカードを読む姿を目にすることが多くなったとの報告があった。生徒にとっても、自分たちに作品が商店街に飾られていることを喜ぶ者も少なくない。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・現在のような制限が緩和されていったときに、以下に地域貢献活動を従来の形に戻していくか、易きに流れる判断にならないようにしたい。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・常に先のことを意識しPDCAサイクルを回していくこと。また、制限が緩和されたときにスムーズに活動を拡大できるよう、活動そのものの効果性やメリットを共有し、資料やマニュアルの整理をしておく必要がある。

4 いじめへの対応に関する項目

□いじめへの対応

(関連アンケート番号：教職員 28、生徒 2.4.5、保護者 4、地域 3)

取組	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の感染が続く中、不安やストレスを抱えた生徒がその発散の手段の一つとしていじめ等の行為が想定されたため、その防止策として普段以上の見守り・声掛けを心掛けた。 ・毎月1回「いじめ防止対策委員会」を開催し、各担任が記入した「いじめ認知報告書」の集計をして、いじめの状況把握に努めた。 ・「いじめは絶対に許さない」をモットーに、学校生活アンケートを実施し、人権に関する講演会を行って、問題の早期発見、早期対応に努めた。 ・いじめ問題の早期発見・早期対応のために、生徒指導部、保健室、S C、S S Wとの連携を密にし、迅速に対応するための環境づくりに努めた。 ・「横浜市いじめ防止基本方針」をもとにした「横浜総合高校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめ問題の早期発見、早期対応に努めた。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回の「いじめ防止対策委員会」の開催により、各担任からの情報を早い段階で得ることができ、対応を検討することが出来た。 ・学校生活アンケートや人権研修会のアンケートにより、各担任が状況把握に対して積極的に対応する姿勢を築くことが出来た。 ・「いじめ防止基本方針」に沿った諸活動については、組織的に取り組んだ結果、令和2年度より高い職員の評価を得ることができた。 ・教育相談体制の充実により、生徒からの早めの相談が増え、教員やS C、S S Wによる早期対応を行うことができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「いじめは絶対に許さない」のモットーをいろいろな場面で常に強く訴えていくことが必要である。 ・問題が発生した時の相談体制を常設し、話しやすい窓口を常に開いておくことが必要である。特に新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う相談体制の更なる充実を進める。 ・SNSの適切な使用法やその問題点についての指導を徹底する必要がある。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の生徒指導や教科指導を通して規範意識や思いやりの心をより一層高めさせる。 ・異年齢との関わり・異空間の体験等、地域との交流活動を通して、多くの価値観に触れ、判断能力の育成に繋げる。